

【プレスリリース済】



|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 令和5年6月17日                       |   |
| 連絡先                             |   |
| G7三重・伊勢志摩交通大臣会合<br>推進協議会事務局     |   |
| (雇用経済部 G7交通大臣会合推進<br>プロジェクトチーム) |   |
| 担当者                             | 郡、古市、岩田、岸本                                      |
| 電話                              | 059-224-3413<br>(17日～18日 公用携帯)<br>080-3708-1534 |

## G7三重・伊勢志摩交通大臣会合（6月17日）の概要について

---

G7三重・伊勢志摩交通大臣会合が、6月16日（金曜日）から6月18日（日曜日）までの3日間、志摩市の志摩観光ホテルを会場として開催されているところです。

17日（土曜日）は、三重県展示ブースの公開を行いました。会合に参加されている各国の代表団が展示ブースを訪問されたほか、ウクライナのオレクサンドル・クブラコフ復興担当副首相兼地方自治体・国土・インフラ発展相も立ち寄っていただきました。

国主催のエクスカッション（しまかぜ乗車、伊勢神宮、ミキモト真珠島）では、三重県の高校生が外国語案内ボランティアとして参加しました。

### 1 三重県展示ブースの公開

三重の食・伝統工芸、産業、観光魅力を紹介するブースを、志摩観光ホテルに設置し、各国代表団の方々に公開しました。

海女漁の伝統的な磯着（いそぎ）を見たドイツ代表団から「本当にこの服で漁をしているのか。寒くないのか。なぜ海女は女性なのか。」との質問があり、海女の林 喜美代（はやし きみよ）さん（志摩市在住・69歳）が「今は、ウエットスーツだが、70年ぐらい前までは、磯着で漁をしていた。女性は男性よりも体が冷えにくく寒さに強い。それでも漁の後は体がキンキンに冷えているので海女小屋で暖をとる。」と答えていました。



三重県展示ブースで、各国代表団と  
会話しする現役の海女



伊賀くみひもの実演展示

## 2 ウクライナによる展示見学

会合に参加されているウクライナのオレクサンドル・クブラコフ復興担当副首相兼地方自治体・国土・インフラ発展相が、急遽、三重県の展示ブースを訪問され、見学していただきました。

見学の最後に、三重県知事から「桑名の千羽鶴」、各国大臣に記念品としてお渡ししたラペルピンを贈呈しました。志摩市長からは「文箱（組子入り）」をお渡ししました。

また、ウクライナの子どものために、井村屋株式会社のカステラ（128袋）、株式会社マスヤのピケイト（60袋）をお渡ししました。

ウクライナからは、絵皿が記念品として贈られました。



知事から贈った桑名の千羽鶴



志摩市長から贈った文箱(組子入り)



ウクライナから贈られた絵皿



ウクライナのオレクサンドル・クブラコフ復興担当  
副首相兼地方自治体・国土・インフラ発展相

### 3 エクスカーション（しまかぜ乗車、ミキモト真珠島）で高校生による外国語案内ボランティアの活躍

宇治山田商業高校の外国語案内ボランティアが、しまかぜ車内と伊勢神宮内宮で英語による伊勢神宮の概要説明を行いました。

宇治山田商業高校3年生の北川美桜(きたがわみお)さん(17歳)は、「伊勢神宮の通訳案内の勉強をしてきたが、今回このような大きな舞台で英語で発表し、とても緊張した。各大臣の方々が私たちの話に熱心に耳を傾けてくださり嬉しかった。この経験を糧にこれからも地域文化や英語の学習に取り組み、三重県の魅力を海外に発信できるように努めていきたい。」と感想を述べました。

また、ミキモト真珠島では、高田高校の外国語案内ボランティアが、ミキモト真珠島の概要説明やハンドクリーム体験の対応等を行いました。

説明を行った、高田高校3年生の伊藤千広(いとうちひろ)さん(17歳)は、「各国の大臣と直接お話できる機会は、なかなか無いのでとても緊張しました。大臣が気軽に声をかけてくださったので、緊張がほぐれて楽しくお話することができました。今回の経験を生かしながら英語の勉強を続け、将来は海外留学し建築を学びたいです。」と感想を述べました。



しまかぜ及び伊勢神宮での外国語案内ボランティアの説明(宇治山田商業高校)



ミキモト真珠島での外国語案内ボランティアの説明(高田高校)